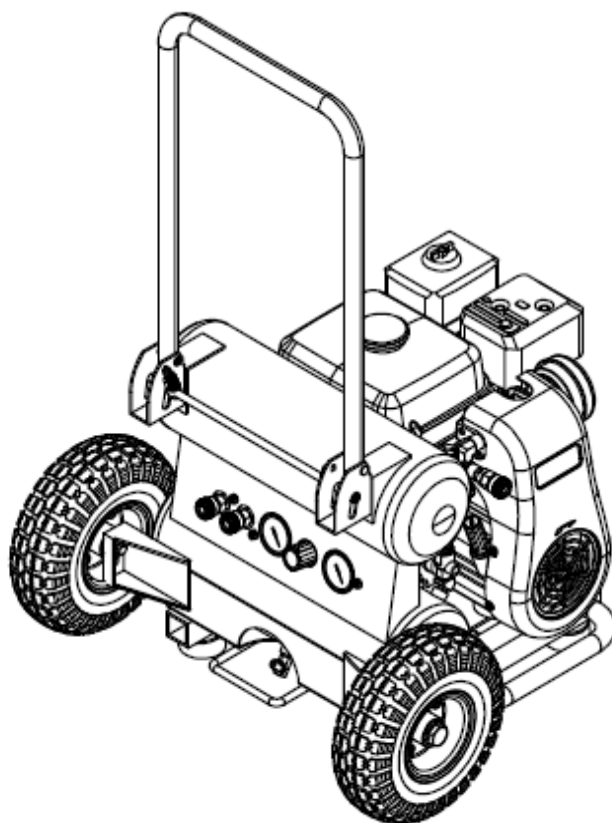


# Airwave

## 小型エンジン式 エアーコンプレッサー GM-16ES

### 取扱説明書

この度は、弊社「Airwave 小型エンジン式エアーコンプレッサー GM-16ES」をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。ご使用前に必ず取扱説明書をお読み下さい。尚、この取扱説明書は大切に保管して下さい。



KAZ  
株式会社 和コーポレーション

200317

この度は、(株)和コーポレーション製品をご購入頂き誠に有難うございます。

本書には製品の安全性に関する事項と正しい取り扱い方法、簡単な点検・整備・調整について説明してあります。重大な事故、故障にならない為に熟知されている方も本製品の独自の操作方法等がありますので、必ず最後までお読み頂き、安全にご使用下さいますようお願い申し上げます。尚、本製品を他の方に譲渡される場合は、取扱説明書も同時に添付をお願い致します。

## 目次

・ 主な仕様	・ P 3
・ 各部名称	・ P 3
・ タイヤ取付	・ P 3
・ 操作方法	・ P 4
・ 使用上の注意	・ P 5
・ 保守と点検	・ P 6
・ 検査記録表	・ P 6
・ 保証書	・ P 7

## 安全上のご注意

- ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。
- ここに示した注意事項は、下記の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 警告	誤った取扱いにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。	 注意	誤った取扱いにより、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
---	--	---	--

- 本文中で使用される“絵表示”の意味は次の通りです。(製品上使用されない絵表示もあります。)

	排気ガス中毒！ (屋内など閉鎖された換気の悪い場所で使用しないこと)		取説注意 (正しく使用すること)		高温注意！ (火傷の恐れあり)		保護具着用！ (保護メガネ・耳栓を着用すること)
---	---------------------------------------	---	---------------------	---	--------------------	---	-----------------------------

### ● 特長

- ・ 徹底した防振構造により、振動・騒音の低減を図りました。
- ・ 出力カップラーをタンク直に1か所、圧力調整器(レギュレータ)後に2か所設置。効率の良い作業ができます。
- ・ 大口径車輪の採用で運搬も容易にできます。
- ・ 可倒式ハンドル採用で保管場所の省スペース化が図れます。

### ● 付属品

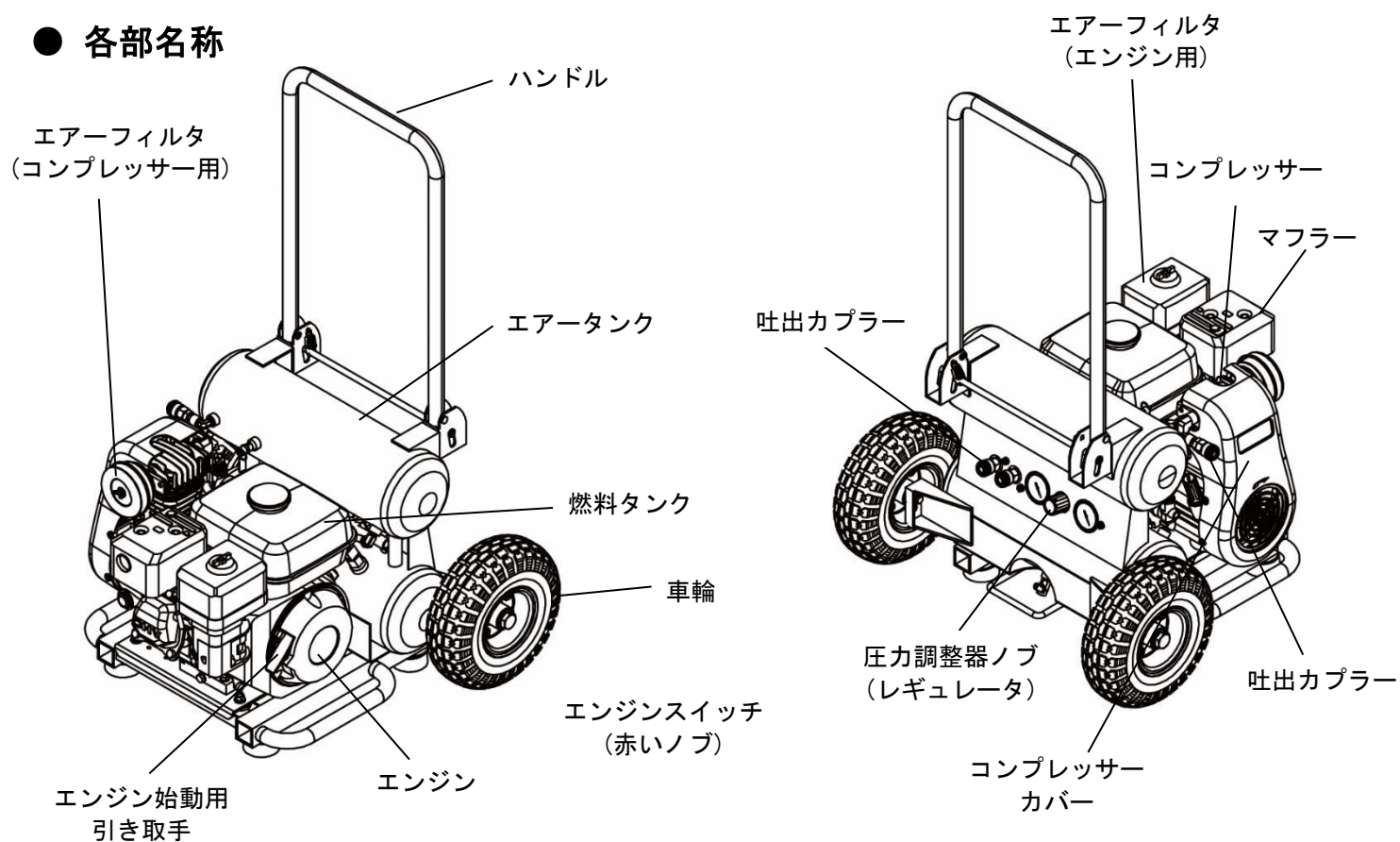
- ・ コンプレッサーオイル(1回分)
- ・ コンプレッサーオイルタンク圧抜きキャップ(ディフューザ)
- ・ ノーパンクタイヤ×2個(左右)
- ・ ノーパンク取付用ボルト×2本

## ● 仕様

型 式	小型エンジン式コンプレッサー GM-16ES
エア-使用圧力	0.98MPa (10kgf/cm <sup>2</sup> )
エア-吐出量	201ℓ/min.
エア-タンク容量	16ℓ (8ℓ×2)
原動機	4ストローク エンジン
エンジン起動方式	リコイル起動方式
ガソリンタンク容量	2.3ℓ
オイルタンク容量	0.6ℓ
エンジン定格出力	4.0PS/3600rpm
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
使用オイル	4サイクル用エンジンオイル
本体寸法	(幅)650mm × (奥行)650mm × (高さ)480mm~1020mm
本体総重量	55kg (乾燥時)

※ 改良のため、製品の外観・仕様が変わる場合があります。

## ● 各部名称



## ● タイヤ取付

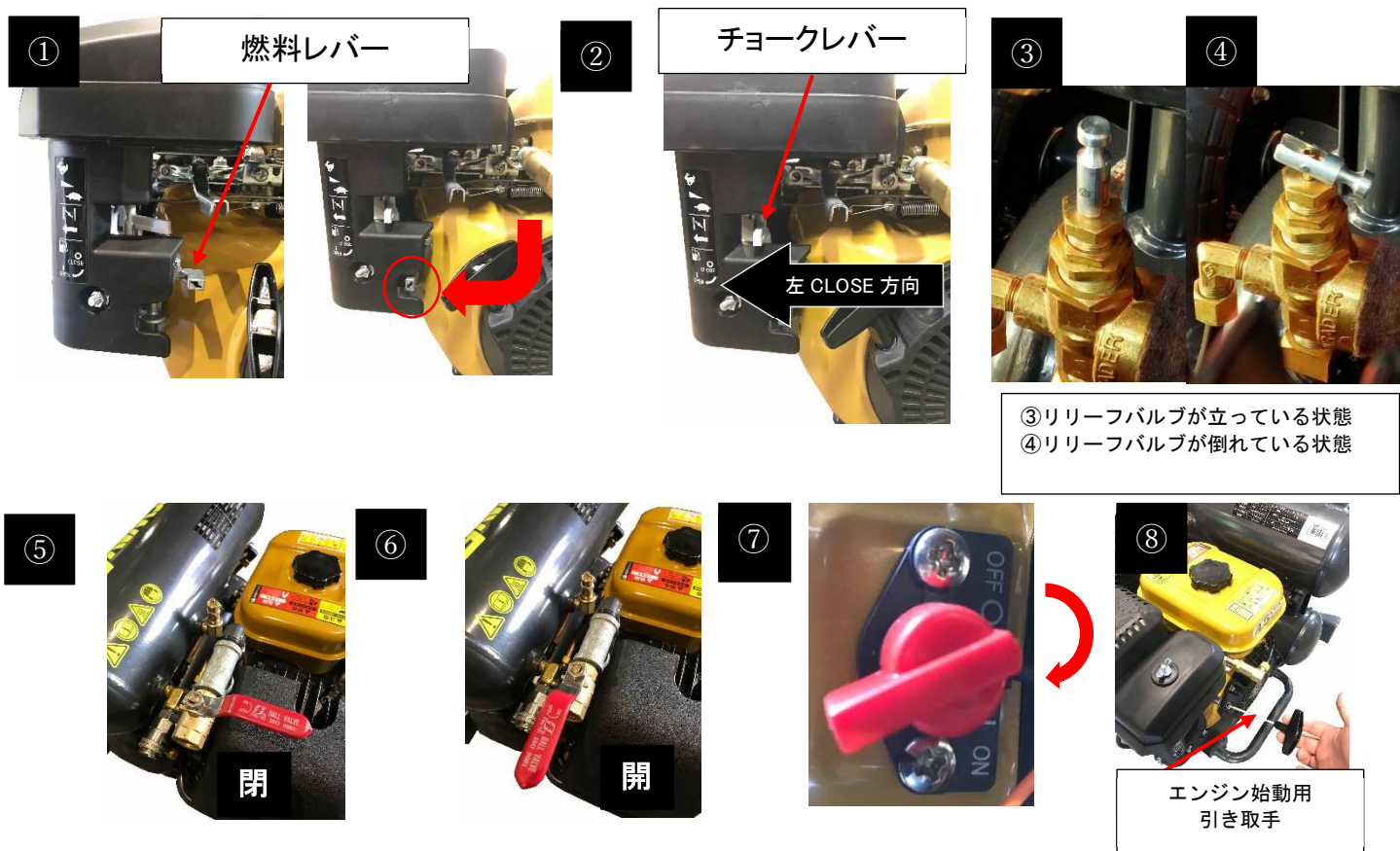


タイヤ取付軸穴が上下2か所あります。  
使用場所、路面に合わせてご利用ください。

## ● 操作方法

### (1) エンジン始動

- ① エンジン始動前にエンジンオイルとコンプレッサーオイルが適量であることを必ず確認してください。  
(注意)エンジンオイル・コンプレッサーオイルが注入されていない状態で使用するとピストンが焼付き故障します。
- ② 燃料タンク内のガソリンが満タンラインを超えていないことを確認してください。  
(ガソリンは、自動車用無鉛レギュラーガソリンをご使用下さい)
- ③ 燃料レバーを図①のように下方(CLOSE→OPEN)の位置にしてください。
- ④ チョークレバーを図②のように左方向(CLOSE)の位置にしてください。  
(冬季の気温が低い時期やエンジンが冷えた状態での始動の際は、必ず左方向(CLOSE)の位置にしてください)
- ⑤ リリーフバルブを図④の様に倒れている状態にしてください。
- ⑥ 図⑤の補助バルブコックを図⑥の様に(開)にしてください。
- ⑦ エンジン部のエンジンスイッチをONの位置にしてください。(図⑦参照)
- ⑧ エンジン始動用引き取手を軽く引っ張りながら、重みを感じたら更に強く引っ張るとエンジンが始動します。(図⑧参照)



※寒冷地や冬期で気温が低い時は、エンジンが上記①～⑧の手順を行っても起動し難い場合があります。その時は、上記図④のリリーフバルブを図③の様に立て、図⑥の様に補助バルブコックを(開)にした状態で、再度エンジン始動用引き取手を引き始動を試みてください。

- ⑨ エンジン始動後は、チョークレバーを徐々に右方向 (OPEN) に戻してください。図⑨参照
- ⑩ チョークレバーを全開 (OPEN) にし、エンジンが正常回転になりましたら、図⑥補助バルブコックを図⑤の様に(閉)の位置にしてください。



※図③のリリーフバルブが立っていれば、図④の様に倒してください。

上記手順でエンジン始動は完了です。

## ⚠ 注意

- ・ チョークレバーの引き過ぎは、点火プラグやエンジンに悪影響を与えます。
- ・ ガソリンは、自動車用無鉛レギュラーガソリンをご使用下さい

### (2) コンプレッサー運転

エンジン始動と同時にコンプレッサーは運転し、エアータンクにエアーを充填します。エアータンク内圧力が0.98MPa(10kgf/cm<sup>2</sup>)でエンジン回転数は自動で減速し、低速回転で待機運転します。

エアータンク内圧力が0.78MPa(8kgf/cm<sup>2</sup>)まで下がるとエンジン回転数は自動で加速し、高速回転で充填運転します。

### (3) エンジン停止

- ① エンジンスイッチをOFFの位置にしてください。
- ② 燃料レバーを上方向 (OPEN→CLOSE) の位置に戻してください。  
(図⑩参照)



### ● 使用上の注意

- ① 屋内での使用を禁止します。
- ② 本機を運転中に子供をコンプレッサーに近づかせないでください。
- ③ 本機を運転中に斜め、横にしての移動はしないでください。
- ④ 本機運転時には、周囲の建築物や障害物から1m以上離してください。
- ⑤ 製品は大事に扱ってください。誤って落としたり、ぶついたりした場合は、異常の有無を確認してください。
- ⑥ シリンダーに取付けるエアフィルタの向きはエンジンの熱を吸い込まないように、エアフィルタ吸い込み口(筒状)を左下向きに取付けてください。
- ⑦ ガソリンやオイル類の注入はエンジンを止めてから行ってください。
- ⑧ オイルの入れ過ぎは、オイル漏れの原因となりますのでご注意ください。
- ⑨ 給油する際は、喫煙や火気厳禁です。
- ⑩ 保管場所は、チリ・ホコリが少なく風通しの良い場所を選んでください。また温度や湿度の高い所や直射日光のあたる所は避けてください。



エアフィルタ  
吸い込み口(筒状)  
を左下向きに取付

## ⚠ 警告

- ・ 屋内使用禁止ですが、万一 屋内で使用される場合は、換気に充分配慮ください。
- ・ 作業場所には作業関係者以外は近付けないで下さい。特にお子様は危険です。
- ・ 作業には耳栓・ゴーグル(保護メガネ)を着用して下さい。
- ・ ガソリン給油中は、火気厳禁です。くわえタバコで給油しないでください。
- ・ ガソリンやオイル類の注入は、エンジンを止めてから行ってください。

## ⚠ 注意

- ・ 保管場所は、チリ・ホコリが少なく風通しの良い場所で保管願います。

## ● 保守と点検

- ① 毎回使用する前には、本機を清掃してください。
- ② ドレンコックを毎日開けてタンク内の水を排出してください。
- ③ 本機使用後は必ずタンク内の空気と水を排出してください。
- ④ 使用する前にオイル(エンジンオイル・コンプレッサオイル)をチェックしてください。
- ⑤ エアフィルタは3ヶ月毎、又は50時間運転毎に清掃してください。使用する周囲環境(ホコリが多い等)により、清掃回数を増減させてください。
- ⑥ オイル類は、下記を目安に交換してください。
  - ・エンジンオイル：初回は50時間運転を目安に、その後は300時間運転を目安に新しいオイルと交換してください。
  - ・コンプレッサオイル：初回は50時間運転を目安に、その後は300時間運転を目安に新しいオイルと交換してください。
- ⑦ 一定期間(3か月以上)使用されない場合は必ず製品内の燃料を抜いて保管して下さい。燃料が入った状態で長期間保管されると、燃料が劣化しエンジンが起動なくなり、エンジンの故障に繋がります。
 

※一定期間使用しない場合は、エンジンが停止するまで使用してから保管して下さい。(タンク内燃料を全て使用する)

## ● 検査記録表

検査項目	検査日付		年	年	年	年	年	年
	月	日	月	日	月	日	月	日
本体損傷の有無								
エンジン点火プラグ								
フィルタ清掃・交換(エンジン用)								
オイル補充・交換(エンジン用)								
フィルタ清掃・交換(コンプレッサ用)								
オイル補充・交換(コンプレッサ用)								
安全弁・リリーフ弁								
水抜き								
異常音・振動・その他								
検査担当者								

検査項目	検査日付		年	年	年	年	年	年
	月	日	月	日	月	日	月	日
本体損傷の有無								
エンジン点火プラグ								
フィルタ清掃・交換(エンジン用)								
オイル補充・交換(エンジン用)								
フィルタ清掃・交換(コンプレッサ用)								
オイル補充・交換(コンプレッサ用)								
安全弁・リリーフ弁								
水抜き								
異常音・振動・その他								
検査担当者								